

セッション3：技術革新に対応した市場監視・RegTech エコシステムの構築

はじめに

技術革新が証券市場に与える影響は大きなものがある。証券業界は、これまで、その技術革新にうまく対応してきたというのが大方の見方と思われるが、今、従来とは異なる新しい波、FinTechの波が押し寄せてきている。

このセッションでは、新しい時代の新しいリスクにチャレンジしているパネリストに登壇いただき議論を行う。

現状の取組み

- ブロックチェーン技術（パーミッション型）を活用したビジネスプラットフォームを提供しているところであるが、例えば、ネットワークの中に、第三者が入ることによって、スキームにガバナンスを効かせることが可能。ここに、当局がうまく入って、うまく活用する、これが求められる RegTech の形ではないか。
- 市場監視にあたっては、市場の実態を正しく理解することが前提。そのうえで、不公正取引等の事象があれば早期発見、是正、摘発につなげていく。こういった観点から、5年後、10年後の見据えた先見的な視点を持って、現在の市場の実態を分析していくことが重要。
- 技術革新については、全般的にはポジティブに捉えているが、一方でリスク・課題もあり、具体的には次の点を頭に置いておく必要がある。
 - ①法律と実態の乖離、②監視対象データの大容量化、複雑化
 - ③技術の効果的な活用（ビッグデータ解析等）
- 技術の進展は、機会（Opportunity）と課題（Challenge）の両方を与える。リーマンショックを踏まえ、国際的に導入された LEI（Legal Entity Identifier）は、技術が進歩していない時代には考えられなかったもの。一方、監視当局として得られた情報をどう活用するか、ロボアドバイザーの適合性・説明責任をどう考えるか、などの課題もあるなど、当局は光と影両方を見る必要がある。FinTechが進展する中、当局もイノベーションは進めつつ、利用者保護、公正性確保を同時に確保するべく取り組んできた。
- ブロックチェーン、クラウドコンピューティング等の技術の進展に伴い、現状の監視活動に既に影響を与えている分野もあり、これらに技術革新に適切に対応するために、RegTechのエコシステムを作る必要がある。

- 今回のテーマである RegTech について、構成要素としては、①規制報告の自動化、②KYC (Know Your Customer) のデジタル ID 化、③リアルタイムでのマーケット動向の解析（アルゴリズムの活用等）の 3 点が挙げられる。特に①に関して言えば、現状、金融機関の規制対応コストは膨大であり、RegTech でどこまでコストを下げるができるか、そこが成功のカギではないか。

課題に対する解決策

・オープンイノベーションへの対応について

- 様々なテクノロジー（AI、ブロックチェーン等）を使う場合に、テクノロジーベースでなく、イシューベースで、例えばブロックチェーンであれば、皆でデータをシェアすることによって改善できないかといった発想でアプローチしてみることが重要。

- デジタル化されたデータを集めてリアルタイムで分析・検証していく姿について、近景・中景・遠景を描きながら、予算を要求していけばいいのではないか。

・技術革新に対応した監視への取組みについて

- 直近 AI を活用した株価審査の実用化の見込みが立ち、実務に導入するための開発を行っている。これまでも様々な技術研究は行ってきて、うまくいかなかったケースもあるが、チャレンジを繰り返していくことが大事。

- 複数の名義（借名等）を使って行う不公正取引も、現状一つ一つ丁寧に取引形態から推測して名寄せを行っているが、ここにテクノロジーを使う可能性もあると考えている。

・新しい金融商品や取引形態に対する規制及びそれに対する人材育成について

- 規制当局は、これまで国際的に試行錯誤しながら議論を深めてきて、それぞれのケースにどう対応すべきか、ある程度の相場観があったと思うが、今の動きはそれを根底から覆す可能性がある。ICO を例にとっても、各国でスタンスが相当異なる中でどうすべきか、まさにこの点について国際的な議論を深めていく必要があると認識している。

- 人材育成について、今後 5 年、10 年後何が必要か考え特定したうえで、必要な専門人材の育成、外部人材の登用が必要。ただ、当局だけでできるものではないため、官民挙げてのエコシステムの中で相互に切磋琢磨しながらやっ

ていく必要がある。

監視委への期待

- ブロックチェーンは、インターネットの世界に改ざんできないという信頼を構築することのできる画期的な技術であり、監視委にはその技術をうまく活用して更に信頼を積み重ねていただきたい。
- 監視委の動き・行動が規制の質をそのまま決める側面もあることから、市場の実態・変化に的確に対応した監視活動をしていただきたい。
- 政策決定は、レギュラトリー・サンドボックスの活用などもっと実験ベースにシフトすべき。イノベーションを進めたいのであれば、失敗をサポートするような信頼関係を醸成することが必要。

上記コメントに対し、次のとおり回答

- 国際協調はますます重要になってくる中、民間の力・知恵を借りながら、国際協調も進めていく方向でしっかり取り組んでいきたい。

おわりに

FinTech という言葉が日本で広く知られるようになって 3 年。証券業界の考え方も随分変わってきた印象。

これまでは、業務を慎重に遂行とようとするあまり、イノベーションの芽を摘んできた面もある。FinTech が必要だという議論が進んだ結果、従来よりも積極的に新しい取り組みに挑戦するようになったことは、業界の今後にとっても必要なこと。

イノベーションの結果直面する新たなリスクに対して、新しい技術を活用して正しく対応していくことで、証券業界が健全に発展していくことが必要だと改めて認識できたセッションであった。

以上